

# 參考資料



## 目 次

1 . アンケート本文	
1 - 1 学科長へのアンケート	259
1 - 2 専攻長へのアンケート	259
1 - 3 教育活動に関する自己点検・評価質問書（工学部兼任教授）	261
1 - 4 京都大学工学部・工学研究科教育に関する卒業生調査アンケート	266
1 - 5 学部学生（2回生以上）へのアンケート	269
2 . 工学研究科・工学部概要	
工学研究科・工学部の理念と京都大学の基本理念	273
沿革	274
組織図	275
大学院の専攻別講座等名	276
学部の学科別学科目名	276
平成16年度役職者一覧	277
職員数（教員）職員	278
学生数（大学院・学部）	279
平成16年度入学状況（大学院・学部）	280
卒業・修了状況及び学位授与者数	
1）大学院修了者数（専攻別）	281
2）博士学位授与者数	281
3）学部卒業生数（学科別）	281
研究生、外国人留学生、招へい外国人学者及び部局間協定一覧	282
工学部公開講座	285
図書関係	286
予算関係及び建物面積（予算額・建物面積）	287
3 . 最近の主な動向	288
4 . 工学研究科専攻調査資料	290
4 - 1 工学研究科全体（教員在職年数分布、教員選考等、配属学生数、研究室配属）	291
4 - 2 各専攻・各センター（教員在職年数分布、寄附講座設置状況、教員選考）	292
5 . 工学部調査資料	
5 - 1 工学部全体（教員在職年数分布、研究室配属）	300
5 - 2 各学科（教員在職年数分布、研究室配属）	301
6 . 工学研究科点検・評価委員会委員名簿	303
7 . 工学部点検・評価委員会委員名簿	304



# 1. アンケート本文

## 1-1 学科長へのアンケート

平成 17 年 7 月

工学部学科長各位

(専任・基幹講座：但し協力講座を除く)

工学部及び大学院工学研究科点検・評価委員会  
委員長 荒木光彦

研究・教育活動に関する自己点検・評価質問書

学科名 ( )

本調査は工学部及び工学研究科の教育研究業績に関して自己点検・評価を行うための基礎となるデータの収集を目的として行います。本アンケートの回答内容は、自己点検・評価結果は中期目標・中期計画に基づく外部評価の基礎資料として統計処理して用います。

文章でご意見を書いていただく部分は、手書きでも結構ですが、ワープロのプリントアウトを貼り付けていただければ、機械読み取りが可能になりますのでご協力下さい。吉田キャンパスの方は系事務室総務担当へ、桂キャンパスの方はクラスター事務室総務担当へご提出願います。締め切り 8 月 15 日 (月) でお願います。ご質問のある場合は、分子工学専攻川崎昌博 (kawasaki@moleng.kyoto-u.ac.jp, 075-383-2572) におたずねください。

学科の概要 (自己評価報告書に記入するため。収まらない場合用紙を追加してください)

### ●教員 他研究科に属する教員の京都大学工学部における在職年数調べ (単位・人)

現職	10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上	合計人数
教授				
助教授				
講師				
助手				
合計人数				

※他研究科 (エネルギー科学研究科、情報科学研究科、地球環境学堂) 及び学術情報メディアセンターに所属する教員の在職年数は、工学部兼任の期間を含めてください。

例 1 理学部助手として 3 年、工学部助教授として 6 年勤務、その後、工学部教授として 6 年勤務の方は、工学研究科 (工学部) には 12 年勤務しているので「教授 10 年以上 20 年未満」に 1 名として記入。

例 2 工学部助教授 5 年勤務、エネルギー科学研究科教授 9 年 (工学部兼任 9 年) 勤務の場合は、工学部に 14 年勤務しているのので「教授 10 年以上 20 年未満」に 1 名として記入。

例 3 京都大学工学部以外に勤務されて、お戻りになった方はその戻られた時点から勤務年数をカウントしてください。

例 4 単なる学科名の改称等に伴うものは、前職からの通算年数をカウントする。

### ●研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

- 1 主に、学生の希望に基づいて決めている。
- 2 主に、教官の選択に基づいて決めている。
- 3 学生と教官の話し合いにより決めている。
- 4 成績などに基づき、機械的に決めている。
- 5 その他 (具体的に書きください)

●学科の卒業生が所属する OB 会組織があればその OB 会名とホームページ、主な活動を記入してください。

調査事項は以上です。御協力ありがとうございました。

## 1-2 専攻長へのアンケート

平成 17 年 7 月

工学研究科専攻長各位

(専任・基幹講座：但し協力講座を除く)

工学部及び大学院工学研究科点検・評価委員会  
委員長 荒木光彦

研究・教育活動に関する自己点検・評価質問書

専攻名 ( )

本調査は工学部及び工学研究科の教育研究業績に関して自己点検・評価を行うための基礎となるデータの収集を目的として行います。本アンケートの回答内容は、自己点検・評価結果は中期目標・中期計画に基づく外部評価の基礎資料として統計処理して用います。

文章でご意見を書いていただく部分は、手書きでも結構ですが、ワープロのプリントアウトを貼り付けていただければ、機械読み取りが可能になりますので、可能な場合にはご協力下さい。吉田キャンパスの方は系事務室総務担当へ、桂キャンパスの方はクラスター事務室総務担当へご提出願います。締め切り 8 月 15 日 (月) でお願います。ご質問のある場合は、分子工学専攻川崎昌博 (kawasaki@moleng.kyoto-u.ac.jp, 075-383-2572) におたずねください。

専攻の概要 (自己評価報告書に記入するため。収まらない場合用紙を追加してください)

### ●教員 京都大学工学研究科における在職年数調べ (単位・人)

現職	10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上	合計人数
教授				
助教授				
講師				
助手				
合計人数				

例 1 理学部助手として 3 年、工学部助教授として 6 年勤務、その後、工学研究科教授として 6 年勤務の方は、工学研究科には 12 年勤務しているのので「教授 10 年以上 20 年未満」に 1 名として記入。

例 2 京都大学工学研究科以外に勤務されて、お戻りになった方はその戻られた時点から勤務年数をカウントしてください。

例 3 単なる講座・専攻名の改称等に伴うものは、前職からの通算年数をカウントする。

### ●寄附講座設置状況 (平成 16 年度設置されていたものすべてについて記入)

講座名称 設置学科 (専攻) 名 設置期間 寄附者名 予定を含む寄付金総額 (千円)

平成 年 ~ 年

平成 年 ~ 年

平成 年 ~ 年

平成 年 ~ 年

(1 枚で収まらない場合、用紙を追加してください)

●教員選考等における任期制、公募制の導入状況について、その件数も含めて記入下さい。

公募教授 名、公募助教授・講師 名、公募助手 名

任期教授 名、任期助教授・講師 名、任期助手 名

●研究室 (ゼミ) 当り配属される学生数は、例年どの程度でしょうか。

学部学生 10 名以上、5 名から 10 名、3 名から 5 名、3 名以下、その他

M1 学生 10 名以上、5 名から 10 名、3 名から 5 名、3 名以下、その他

### ●研究室配属は、どのようにして決定されていますか。

- 1 主に、学生の希望に基づいて決めている。
- 2 主に、教官の選択に基づいて決めている。
- 3 学生と教官の話し合いにより決めている。
- 4 成績などに基づき、機械的に決めている。
- 5 その他 (具体的に書きください)



●専攻の卒業生が所属するOB会組織があればそのOB会名とホームページ、主な活動を記入してください。

調査事項は以上です。御協力ありがとうございました。

### 1-3 教育活動に関する自己点検・評価質問書 (工学部兼任教授)

平成17年7月

工学部兼任教授各位

工学部及び大学院工学研究科点検・評価委員会  
委員長 荒本光彦

#### 教育活動に関する点検・評価質問書

本調査は工学部兼任の教授を対象に、自己点検・評価を行うための教育活動に関するデータの収集を目的としています。本アンケートの回答内容は統計処理後、自己点検・評価報告書として公表し、中期目標・中期計画に基づく外部評価の基礎資料とします。よろしく御協力下さいませようお願いいたします。今回は質問項目が多いですが、来年度以降は多くの質問項目を省略する予定です。

なお本調査に関してのご意見・ご質問は点検・評価委員 河合 潤 ([jun.kawai@materials.mbox.media.kyoto-u.ac.jp](mailto:jun.kawai@materials.mbox.media.kyoto-u.ac.jp)) へお問い合わせ下さい。文章でご意見を書いていただく部分は、手書きでも結構ですが、ワープロのプリントアウトを貼り付けていただければ、機械読み取りが可能になりますので、可能な場合にはご協力下さい。

吉田キャンパスの方は、系事務室総務担当へ、桂キャンパスの方は、クラスター事務室総務担当へご提出願います。締め切り8月15日(月)でお願います。

#### 1. 所属工学研究科専攻名、年齢をご記入ください。

所属専攻名 ( )  
年齢 (30歳代, 40歳代, 50歳代, 60歳代)

#### 2. 教育理念、目的、目標について

工学研究科・工学部の「基本理念」は、研究科長が京都大学工学広報(No.41, 2004.4)に述べられているように「学問の本質は真理の探求である。その中において、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担うものであり、分野の性格上、地球社会の永続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っている。京都大学工学研究科・工学部は、上の認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を図るとともに、高度の専門能力と高い倫理性、ならびに豊かな教養と個性を兼ね備えた人材を育成する。このような研究・教育を進めるにあたっては、地域社会との連携と国際交流の推進に留意しつつ、研究・教育組織の自治と個々人の人権を尊重して研究科・学部の運営を行い、社会的な説明責任に応えるべく可能な限りの努力をする。」と決められました。

この京都大学工学部・工学研究科の教育・研究の理念・目的に対して、ご意見を記述してください。また、京都大学の「自由の学風」は、学生の「主体性」(ここでいう主体性とは、自分自身で決断し行動する能力を意味する)があってはじめて維持できるものです。学生

の「主体性」を伸ばすために有効と考えておられることがありましたら記述してください。

アドミッションポリシーについて、お尋ねします。現在、工学部・工学研究科が掲げる教育目的および目標をクリアするのに十分な能力をもち、明確な目的意識や適性をもった学生が確保できていると感じておられるでしょうか。

- 1 能力の高い学生を確保している
- 2 おおむね確保している
- 3 満足に確保できていない

アドミッションポリシーについてご意見あればお書きください

#### 3. 全学共通科目について

##### 3.1 全学共通科目A群科目(人文・社会科学系科目)

(1) 現在のA群科目は教養教育に役立っているとお考えですか。

- 1 全く役に立っていない

- 2 あまり役だっていない。
- 3 役立っている。
- 4 非常に役立っている。
- 5 その他

(2) 設問(1)で、1あるいは2と答えられた先生にお尋ね致します。現在のA群科目が教養教育に役立っていないと判断された理由は何のようなことによるでしょうか。

- 1 工学分野の技術者の育成に教養教育は必要無い。
- 2 学生の履修状況から判断して、現状では役に立っていない。
- 3 教養教育にとって、大学の講義より相応しい方法がある。
- 4 本学の教養教育システムが有効に機能していない。
- 5 その他

##### 3.2 全学共通科目C群科目(外国語科目)について

全学共通科目での英語教育のあり方についてどのようにしたら良いとお考えでしょうか(複数回答可)。

- 1 今のままで良い。
- 2 会話やヒアリングなどの実用英語を充実する。
- 3 TOEFLやTOEICなどの検定試験を単位に認める。
- 4 テキストに科学・技術関連の教材を利用する。
- 5 LLやVideo その他の情報機器を活用する。
- 6 必修単位数を現在から減らす。
- 7 従来型の教育をより充実する方がよい。
- 8 その他の英語教育についての意見

3.3 少数セミナー(ポケットゼミ)は、多くの教官、学生に好意的に提えられているようですが、先生はこのような形式の授業に対してどのようにお考えですか。

- 1 大規模であり、もっと多く開講するのが良い。
- 2 良い試みではあるが講義負担なども考慮して適切な数の講義を開講するのが良い。
- 3 費や時間が多いが、得られる成果が今ひとつである。
- 4 担当していないので分からない。
- 5 その他

3.4 法人化や桂移転により、学部の講義・演習・実験などの負担が増えたとお感じですか。

- 1 増えた。
- 2 殆ど変わらない。
- 3 減った。
- 4 その他

法人化や桂移転についてご意見あればお書きください

#### 4. 学部授業

4.1 先生の代表的な学部講義科目1科目について、授業の進め方およびスタイルについて教えてください。

(1) 出欠のチェック

- 1 毎回出欠をチェックする。
- 2 出来るだけチェックする。
- 3 時々チェックする。
- 4 ほとんどチェックしない。

(2) 教科書の使用

- 1 教科書中心に講義している。
- 2 教科書を指定しているが、講義は必ずしもそれに沿っていない。
- 3 教科書は指定していないが、参考書は指定している。
- 4 教科書や参考書を指定していない。
- 5 その他

(3) 授業のスタイルについて

- 1 AV機器やコンピュータの presentation システムを大いに活用している。
- 2 必要に応じて上記の機材を活用している。

- 3 板書を主体とし、上記の機材は殆ど使用しない。
- 4 その他

(4) 講義の方針について

- 1 基礎的な事項を理解させることを主眼にしている。
- 2 基礎的な事項の教授を主とするが、適宜応用ないしは専門的な内容も含めている。
- 3 専門的な内容を中心に講義を行っている。
- 4 当該科目に関する最新のトピックスを中心に講義を進めている。
- 5 その他

4.2 先生の代表的な講義科目 1 科目について、学生の受講態度について教えてください。

(1) 数値を列挙して下さい。おおよそで結構です。

履修登録者数 / 出席者数 / 受験者数 / 合格者数  
 [ / / / ]

(2) 講義に出席する学生の反応

- 1 受講態度が積極的な学生が多く質問や意見も多く出る。
- 2 受講態度は概ね良いが、講義に対する反応はそれほど良くない。
- 3 受講態度が消極的で講義中に私語を交わす学生が多い。
- 4 その他、お気づきの点がありましたらお書きください。

(3) 最近の学生の知識、能力に関してどのように感じていますか。

- 1 以前と大差無い。
- 2 以前に比べて知識は充分あるが、深く考える習慣や意欲に欠ける。
- 3 以前に比べて基礎的な知識すらおぼつかない。
- 4 その他

6 その他

4.5 先生の代表的な講義科目 1 科目について、授業に関する教官自身の評価についてお尋ねします。

(1) 毎回の講義、実験、演習で参加学生のうち何%程度が講義実験、演習内容を十分理解したとお考えですか。

- 1 20%の学生
- 2 50%の学生
- 3 80%の学生
- 4 全員

(2) 助手、技官、TA などどの程度講義を手伝っていらっしゃいますか。

- 1 かなり頻繁に仕事を依頼している。
- 2 ときどき依頼する。
- 3 大量のレポートの採点などのときのみ、依頼している。
- 4 殆ど頼まない。
- 5 その他

(3) 講義、演習、実験などが重荷と感じられることがありますか。

- 1 感じることは殆ど無い。
- 2 ときどき感じる。
- 3 常に感じている。
- 4 その他

4.6 先生ご担当の学部講義について、その具体的内容、成績評価などは完全に先生の裁量に任されていますか。もしそうでなければ、どのような拘束がありますか。

(4) 先生が期待なさっている学生像と比較して現実の学生はどうですか。できるだけ具体的に書きください。

4.3 先生の代表的な講義科目 1 科目について、外国人留学生教育についてお尋ねします。

(1) 先生の担当科目を、現在何人の外国人留学生教育が受講していますか。

- 1 6人以上
- 2 3-5人
- 3 1-2人
- 4 0人

(2) 留学生教育で苦労されている点は何ですか。

- 1 コミュニケーション
- 2 生活習慣の違いから生じるトラブル
- 3 限られた期間で所定の教育を行うのが困難である。
- 4 物にない。
- 5 その他

4.4 先生の代表的な講義科目 1 科目について、成績評価、単位認定についてお尋ねします。

成績評価をどのようにされていますか。

- 1 試験の成績のみで評価している。
- 2 試験の成績に出席状況を加味して評価している。
- 3 試験を行わず、レポートを提出させて評価している。
- 4 レポートと出席状況で評価している。
- 5 出席状況のみで評価している。

5. 特別研究(卒業研究)

5.1 特別研究の質

- 1 以前に比べて著しく向上した。
- 2 以前に比べてやや向上した。
- 3 以前と変わらない。
- 4 以前に比べてやや低下した。
- 5 以前に比べて著しく低下した。

5.2 京大工学部卒業の条件として、以下のうちどの点を重視されますか。

- 1 専門の知識、技能を確実に身に付けさせること
- 2 物事の原理が理解できれば、確かな知識は不要
- 3 学び方を身につけていればそれでいい。
- 4 学業以外で十分な活動をしていれば、学力は重要でない。
- 5 その他 (具体的に書きください)

6. 教育改善システム

6.1 学生による授業評価

(1) 学生による授業評価をどのように考えていますか。

- 1 大変貴重な情報を与えてくれる。
- 2 多少偏見があるように思われる。
- 3 慎重に検討する必要がある。
- 4 役に立たない。
- 5 その他

(2) 学生による授業評価をどのように利用していますか (しよとと考えていますか)。

- 1 全面的に授業の改善に役立てる。
- 2 一部については、授業に取り入れる。
- 3 殆ど関係ない。
- 4 その他

6.2 先生がご自身の授業を評価する場合、第一の評価尺度としてどのようなものをお考えでしょう。

#### 7. 学科におけるカリキュラムと教育システム

7.1 現在、講義に比べて演習、実験など実技科目へのコマ当たり割り当て単位数が軽くなっています。これについてはどのように感じておられるでしょうか。

7.2 京都大学の学部教育の現状と改善すべき点について、感じておられることがありましたらお書きください。

7.3 セメスター制への移行についてどのような影響がありましたか。

#### 8. JABEEへの対応

8.1 JABEEへの対応についてはどのようにお考えですか。JABEEとは日本技術者教育認定機構 (Japan Accreditation Board for Engineering Education) による教育プログラムの認定制度のことです。

- 1 JABEEについてわからない (知らない)。
- 2 結構なことなので、積極的に取り組むべきである。
- 3 従来のシステムとの整合性をはかりながら、進めるべきである。
- 4 従来のシステムの方が良いので、参加しない方が良い。

8.2 JABEEとの関連で、先生の授業の内容を見直す予定がありますか。

- 1 既に見直している。

- 2 大いにある。
- 3 一部、考慮して変更を加える。
- 4 基本的に、これまでの授業内容に変更を加えることはない。
- 5 授業に対するJABEEの要求を知らない。
- 6 JABEEへの対応を進めていない学科の講義である。
- 7 その他

8.3 工学倫理に関する教育についてどのようにお考えですか。

- 1 JABEEとは関係なく、当然教えるべき科目である。
- 2 工学倫理は必要なことであるが、大学教育の一環として教える必要はない。
- 3 JABEEに対応するために教えてもよい。
- 4 分からない。
- 5 その他

8.4 インターンシップについては、どのようにお考えですか。

- 1 学部教育の一環として積極的に推進すべきである。
- 2 大学院において推進すべきである。
- 3 学生の自主的判断にまかせればよい。
- 4 あまり意味がないので、推進する必要はない。
- 5 その他

8.5 JABEEで要求される創生型科目 (デザイン型科目) として、特別研究は相応しいと思われますか。

- 1 相応しい。
- 2 創生型科目と見なせないことはない。
- 3 創生型科目とみなすのは、難しい。
- 4 創生型科目とはどういうものかそもそも知らない。
- 5 その他

#### 9. キャンパスの分散化 (桂移転) と学部教育のあり方

桂移転に伴い学部教育のあり方も大きく変化すると予想されますが、先生にとって一番大きな変化はどのようなことと考えられますか。

#### 10. 社会の動向と授業内容

環境問題、ハイテク、IT、情報社会、少子高齢化、グローバル化、バイオテクノロジーなど、大学を取り巻く社会の動向と授業内容との関連において、先生が常に心がけておられることをお教え下さい。

この項目より最後まで、大学院工学研究科に関する質問ですので、工学研究科以外の先生の回答は不要です。ご協力どうもありがとうございました。

#### 11. 大学院入学と講義、研究指導について

##### 11.1 修士課程入学について

(1) 現在の貴専攻大学院修士課程募集定員の多寡について、どのようにお考えですか。

- 1 そのままでよい。
- 2 増やした方がよい。 [ %程度]
- 3 減らした方がよい。 [ %程度]

(2) 大学院修士課程の入学試験の時期について、どのようにお考えですか。

- 1 現行の時期でよい。
- 2 もっと早い時期にした方がよい。
- 3 もっと遅い時期にした方がよい。
- 4 その他 ( )

(3) 修士課程の入学試験に関係して、改善した方がよいと思うことがあれば、それについてお書きください。

##### 11.2 講義について

(1) 各担当講義内容、水準に関しては、どのように決定されますか。

- 1 基礎を重視。
- 2 応用を重視。
- 3 現在の産業等の状況を踏まえて、最新内容の講義を行う。
- 4 上記を全く考慮せず、自分の興味で講義する。
- 5 その他

(2) 学生の理解度を、どのように判断され、その結果を講義にどのように反映されますか。

##### 11.3 研究指導について

(1) 研究指導に関し、学生のテーマ決定はどうされますか。

- 1 教官の方から、一方的にテーマを与える。
- 2 教官の方から与えつつ、学生の意見も取り入れて修正する。
- 3 学生の自由に任せる。
- 4 その他。

(2) 研究室の学生の研究活動に関する指導に関して

- 1 一日一回学生とミーティングを行う。
- 2 一週間に1、2回程度ミーティングを行う。
- 3 一ヶ月に1、2回程度ミーティングを行う。
- 4 ほとんどなし。

##### 12. 大学院学生に対する奨学金、RA、COE 制度について

博士課程学生に対する奨学金について拡充すべきであるという意見があります。その方策その他について御意見があれば、記載してください。

#### 13. 社会と大学院教育

急激に変化する社会に対応するために、大学・大学院教育のあり方について必要と考えられることをお教えてください。

#### 14. 学生の講義への出席率、出席率と成績との関係

学生の講義への出席率、ならびに、出席率と成績との相関などについてお訊ねします。

先生が担当された代表的な科目についてお答え下さい。

出席率と成績の相関、合格率（単位取得率）についても大まかな印象をお書き下さい。

1. 科目名（正確でなくてもよい） \_\_\_\_\_

2. 配当学年 1, 2, 3, 4, 修士課程

3. 出席率は如何でしたか？

2004年度 80%以上 80~60% 60~40% 40%>

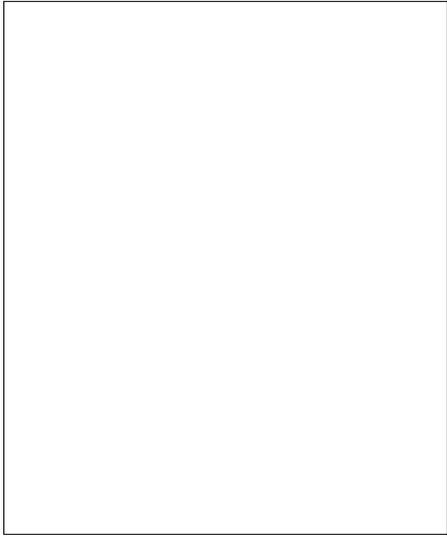
4. 合格率（単位取得率）は \_\_\_\_\_ %程度

5. この科目について出席率と成績との相関はありましたか？

出席率と成績の関係 1. 大いにある 2. 何とも言えない 3. ない

#### 15. 学生像

現在の学生像を、どうとらえますか。彼らにどんな注文をつけたいですか。また、それは10~20年前とどのように変わりましたか。



アンケートにご協力いただき、有難うございました。

# 1-4 京都大学工学部・工学研究科教育に関する卒業生調査アンケート

平成17年7月25日

京都大学工学部卒業生各位

工学部及び大学院工学研究科点検・評価委員会

委員長 荒木光彦

京都大学工学部・工学研究科教育に関する卒業生調査アンケートの依頼

工学部・工学研究科（以下、本学部と略称）は、設立以来多くの優秀な人材を社会に送り出してきました。今後もこの伝統を活かすべく、さらには、来るべき新しい時代に対応するため、これまでの教育に対する自己点検・評価の作業をおこない、新たな教育システムを構築していくことを目指しています。この作業の中で、卒業生の皆様にもご協力いただき、みなさんが在学しておられたときの教育をどのように見るのか、どのように位置づけるかについて、ぜひご意見をいただきたいと思っております。

本アンケートの回答内容は統計処理後、自己点検・評価報告書として公表し、中期目標・中期計画に基づく外部評価の基礎資料とします。お答えいただいた結果は、すべて匿名で扱われ、また自己評価以外に転用されることはございません。今回のアンケートは、社会に出て活躍しておられる30歳までの方々（大学卒業後または大学院修了直後の人を含む）を対象としています。つきましては、ご多用中まことに恐縮ですが、本アンケートにお答えいただき、ご返送いただけると幸いです。

本調査に対するご回答は、平成17年8月20日（土）までにご返送いただきますようお願いいたします。この調査に関するご意見、ご質問などは下記宛へお願いいたします。

京都大学工学研究科

総務課総務課 白波瀬昌廣（しらはせ）

〒606-8530 京都市西京区京大工学部

Tel 075-383-2000 FAX 075-383-2011

e-mail: shiraha@adm.kogaku.kyoto-u.ac.jp

あなたご自身のことについておたずねします。以下にご記入ください。

性別 1. 男 2. 女 (いずれかに○)  
学部入学 西暦( )年[ ( )大学] ( )学科入学

学部卒業 西暦( )年 ( )学科卒業  
大学院修士課程 西暦( )年[ ( )大学院\*\*] ( )専攻入学  
大学院修士課程修了 西暦( )年 ( )専攻修了  
\*京大以外から修士課程へ入学、また\*\*京大以外の大学院へ進学した場合[ ]内に記入して下さい。

現在あなたは 在職中 学生 専業主婦(主夫) 定年退職 失業中 その他( )  
あなたのこれまでに体験した仕事の業種・職種(短期の臨時雇用は除く)を、次の中から該当するものをすべて番号に○をつけて下さい。また、現在のあなたの業種には、◎をつけて下さい。

1. 農・林・水産業
2. 個人経営・自営業
3. 専門職(弁護士、医者、弁護士など)
- 会社員・団体職員(次の6つから選び下さい)
4. 研究職
5. 工場勤務
6. 営業等の職
7. 事務職
8. 上の4つに入らない会社員・団体職員(販売員・運転手など)
9. 役員・管理職
10. 教師(小・中・高・専門学校など)
11. 教員(大学・短大・高等専門学校など)
12. 国家公務員(国家公務員の身分を有する独立行政法人を含む)
13. 地方公務員
14. その他( )

## 【1】京都大学工学部入学に関して

以下の質問に関して、あてはまるものひとつに○をつけてください。

1. 入学を希望された動機についてお尋ねします。
  1. 京都大学工学部に自分の関心の強い分野があり、是非そこを勉強したかった。
  2. 京都大学の学風に惹かれた。
  3. 高校の先生や両親など関りが続いた。
  4. 友達等が希望したので自分もつられて受験した。
  5. 高校等の成績が合格圏であった。
  6. その他( )
2. 入学後の分野についてお尋ねします。
  - 1) 入学時の分野について
    1. 入学時の希望と実際入学した分野が一致していた。
    2. 入学時にとくに強い希望分野はなかった。
    3. 入学時の希望と実際入学した分野が異なっていた。
    4. 希望分野があったが、入学を優先して異なる分野に入学した。
    5. 希望分野はなく、第一に京大に入りたかった。
  - 2) 入学後に分野を変えたいと思ったことがありますか。(転学部・転学科を含む)

1. ある 2. ない
3. 在学中に自分の勉強したい分野がありましたか。
  1. 入学時点で勉強したい分野が固まっており、その方向を通すことができた。
  2. 入学時点で勉強したい分野があったが、在学中に自分の意志でその分野が変わり、その道に変更することができた。
  3. 入学時点で勉強したい分野があったが在学中にそれが失われ、別のものが見つからなかった。
  4. 入学時点で勉強したい分野はなかったが在学中に見つかった。
  5. 入学時点、在学中もとくに勉強したい分野は見つからなかった。
4. 入学時に、自分の将来(社会人になった後)と大学で勉強することをどのように関連づけていましたか。
  1. 自分の関心のある専門分野を勉強し、それを直接活かす領域で働きたい。
  2. 自分の関心のある専門分野を勉強し、それと関連した領域で働きたい。
  3. 専門分野に限らず工学全般に関する広い知識を習得し、それを直接活かして働きたい。
  4. 工学部に入学したいと積極的だったが、将来の進路についてはあまり考えなかった。
  5. 工学を学びたかったわけではなく合格圏であるから受験して入学した。
5. 卒業後の最終的職種・分野についてお尋ねします。
  1. 京都大学入学にあたって希望していた職種・分野であった。
  2. 入学時とは異なるが在学中に自分が希望していた職種・分野であった。
  3. 自分の希望とは異なるが納得できる職種・分野であった。
  4. 特に希望はなかった。
  5. 希望とは合わない不本意な職種であった。
6. 卒業してから現在に至るまでについてお尋ねします。
  1. 最初の仕事に近い分野で仕事を続けており満足している。
  2. 最初は希望した分野ではなかったが、それを続けて満足している。
  3. 途中で職種・分野を変えたが満足している。
  4. 希望した分野・職種に就いたが失望して現在では不満足。
  5. 途中で職種・分野を変えたが不満足。

## 【2】在学中の課外活動について

以下の質問に関して、あてはまる選択肢(複数回答可)に○をつけてください。

2. 1. 京都大学に関連するクラブ活動等について
  1. 体育会系のクラブに入っていた。
  2. 文化系のクラブに入っていた。
  3. 京大に関連する体育会系のサークル(同好会)に入っていた。
  4. 京大に関連する体育会系と文化系の中間のサークル(同好会)に入っていた。
  5. 京大に関連する文化系のサークル(同好会)に入っていた。
  6. 京大に関連するサークル等には入っていないかった。
2. 2. (1)で何らかのサークル等に入っていたと答えられた方にお尋ねします。  
加入しておられた学年年次すべてを○で囲んで下さい。  
1年次 2年次 3年次 4年次 5年次以上
2. 3. 京都大学とは関係のない大学外のサークル・団体について
  1. 体育会系の団体・サークルに入っていた。
  2. 文化系の団体・サークルに入っていた。
  3. 福祉、ボランティア関係の団体・サークルに入っていた。
  4. 体育会系と文化系の中間の団体・サークルに入っていた。
  5. 入っていないかった。
2. 4. (2,3)で何らかのサークル等に入っていたと答えられた方にお尋ねします。  
加入しておられた学年年次すべてを○で囲んで下さい。  
1年次 2年次 3年次 4年次 5年次以上
2. 5. (2,1),(2,3)で課外活動をされた方にお尋ねします。  
在学中に、学業と課外活動のどちらに力をいれていたか。
  1. 学業 2. ほぼ半々 3. 課外活動
2. 6. (2,1),(2,3)で課外活動をされた方にお尋ねします。  
学業と課外活動のどちらが、その後の人生に役立っていると思いますか。
  1. 学業 2. ほぼ半々 3. 課外活動

## 【3】学習環境について

あなたの在学当時の学習環境は当時の社会状況にらしてどうでしたか、

当てはまるものに○をつけてください。

3. 1. 授業環境についてお尋ねします。
  3. 1. 1. 教室の広さ、照明、音響、空調などの状況について。  
1. 満足 2. どちらとも言えない 3. 不満
  3. 1. 2. 教育学習環境について。
    - a. 図書館・自習室等について
      1. 満足 2. どちらとも言えない 3. 不満
    - b. 実験室・演習室等について
      1. 充実 2. どちらとも言えない 3. 不十分
  3. 1. 3. 授業のクラス人数規模について(印象でお答え下さい)
    1. 大きすぎる 2. 適切であった 3. 小さすぎる
  3. 2. 学生時代の時間的ゆとりについてお尋ねします。(学部学生時代の平均的印象でお答え下さい)
    3. 2. 1. 授業時間を除いて
      1. 非常にタイトであった 2. どちらとも言えない 3. 大いに余裕があった
    3. 2. 2. 時間的ゆとりを、主にどのように使いましたか。
      1. 授業の学習復習などで殆ど時間を使った。
      2. アルバイトに時間を使った。
      3. クラブなどの課外活動に時間を使った。
      4. 何となく時間が過ぎた。
      5. 時間的余裕が多かった。
    3. 3. 通学についてお尋ねします。(下宿には親類宅なども含めて下さい)
      3. 3. 1. 各年次で、自宅通学だったか、下宿だったかをお答えください。  
1年次(自宅、下宿) 2年次(自宅、下宿) 3年次(自宅、下宿)  
4年次(自宅、下宿) 5年次以上(自宅、下宿)

3. 3. 2 自宅通学の場合、通学時間は何分でしたか。 \_\_\_\_\_分
3. 3. 3 下宿の場合、当時の一般的な生活水準と比較して、次の質問にお答え下さい。（途中で引越した場合は、全体の印象でお答え下さい） 通学時間 \_\_\_\_\_分
- 部活の広さ 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
- 部活の設備 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
- 部活代 1. 安い 2. まあまあ 3. 高い

【4】科目履修について

以下の質問に関して、指示のない限り、あてはまる選択肢一つに○をつけてください。

4. 1 一般教養科目（全学共通科目）の履修科目選択で、あなたが重視したことは何でしたか、以下の選択肢で重視した順に、1～6の番号を振ってください。

1. 科目内容への興味・関心 ( )
2. 授業担当教官への関心 ( )
3. 単位取得の容易さ ( )
4. 時間割の組みやすさ ( )
5. 友人が出席していること ( )
6. 科目に必要性があった ( )

4. 2 履修科目の選択

専門科目の履修科目選択で、あなたが重視したことは何でしたか、以下の選択肢で重視した順に、1～6の番号を振ってください。

1. 科目内容への興味・関心 ( )
2. 授業担当教官への関心 ( )
3. 単位取得の容易さ ( )
4. 時間割の組みやすさ ( )
5. 友人が出席していること ( )
6. 科目取得が必要であった ( )

4. 3 履修登録科目中の取得単位

履修登録をした科目の中、どれくらいの割合で単位を取得しましたか。

学部 一般教養科目（全学共通科目）	
自然系科目	_____ %
人文・社会系科目	_____ %
外国語	_____ %
専門科目（学部科目）	_____ %
大学院	_____ %

4. 4 取得単位の授業の出席割合

単位を取得した科目の中、どれくらいの割合で講義に出席しましたか。

学部 一般教養科目（全学共通科目）	
自然系科目	_____ %
人文・社会系科目	_____ %
外国語	_____ %
専門科目（学部科目）	_____ %

大学院 \_\_\_\_\_ %

4. 5 一般教養科目、専門科目それぞれ、1年で単位を取得できた科目、単位取得に2年以上かかった科目（1年は不合格であったもの）は、どれくらいの割合でしたか

学部 一般教養科目（全学共通科目）	
1. 1年で単位を取得した	_____ %
2. 2年以上かかった	_____ %
専門科目（学部科目）	
1. 1年で単位を取得した	_____ %
2. 2年以上かかった	_____ %

【5】カリキュラム・授業について（外国語を除けてお答え下さい）

5. 1 (授業及びそれを含む学生生活全体で教養課程2年間についてはどう思いましたか。

1. 充実していた 2. まあまあ 3. 無駄が多かった

5. 2 一般教養科目（全学共通科目）の2年次までの単位取得状況はどうでしたか。

1. 2年次までに（2回生までに）ほとんど取得
2. 2年次までに（2回生までに）75%取得
3. 2年次までに（2回生までに）50%取得
4. 2年次までに（2回生までに）25%取得
5. 2年次までに（2回生までに）25%取得以下

5. 3 基礎・教養科目（全学共通科目）についてお尋ねします。

1. 低すぎた 2. 適当 3. 高すぎた

5. 3. 2 人文社会系科目（全学共通科目A群科目）を履修して、後で役に立っていますか。

1. 役に立つ 2. どちらでもない 3. 役に立たない

5. 3. 3 自然系科目（全学共通科目B群科目）を履修して、後で役に立っていますか。

1. 役に立つ 2. どちらでもない 3. 役に立たない

5. 4 専門科目（学部科目）についてお尋ねします。

5. 4. 1 専門科目（学部科目）の授業レベルはどうでしたか。

1. 低すぎた 2. 適当 3. 高すぎた

5. 4. 2 専門基礎科目で、後で役に立ったものが数多くありますか。

1. たくさんある 2. どちらでもない 3. ほとんどない

5. 4. 3 専門の応用的科目で、後で役に立ったものが数多くありますか。

1. たくさんある 2. どちらでもない 3. ほとんどない

5. 5 大学院修士課程科目についてお尋ねします。（該当のみお答えください）

5. 5. 1 大学院修士課程科目の授業レベルはどうでしたか。

1. 低すぎた 2. 適当 3. 高すぎた

5. 5. 2 大学院修士課程科目で、後で役に立ったものが数多くありますか。

1. たくさんある 2. どちらでもない 3. ほとんどない

5. 6 体育実技の授業は現在履修ですが必要とお考えですか。

1. 増やすべき 2. 現状でよい 3. 不要

【6】外国語の授業について

6. 1 英語の授業内容は

1. 役に立つ 2. どちらでもない 3. 役に立たない

6. 2 英語のクラス編成について

- 1) クラスは何人でしたか？ ( ) 人（大略で結構です）
- 2) その人数は 1. 少ない 2. 適当である 3. 多い

6. 3 英語の授業について英検、TOEICなどを単位に認めることについて

1. 賛成 2. どちらでもない 3. 反対

6. 4 会話、LL等の教育を充実すべきである。

1. 賛成 2. どちらでもない 3. 反対

6. 5 工学英語などを導入することについて

1. 賛成 2. どちらでもない 3. 反対

6. 6 語学は通年1コマを2単位としています。第1外国語（英語）は現在6単位必修となっています。

単位数をどのようにするべきだと思いますか。

1. 減らす 2. そのまま 増やす

6. 7 第2外国語（必修外国語）現在4単位必修となっています。

1) 第2外国語を履修することは必要ですか。

1. 必要 2. 不要 3. わからない

2) 1)で1. 必要と答えた方へお尋ねします

通年1コマを2単位として何単位が適当ですか。 \_\_\_\_\_単位

3) 1)で2. 不要と答えた方にその理由をお尋ねします

1. 語学は英語だけで十分である。
2. これ以上語学の授業に回す時間的ゆとりがない。（語学より必要な科目がある。）

3. 第2外国語を学習するより、英語会話や英語作文、工学英語などの能力を高める方がよい

4. その他 ( )

【7】授業に対する満足度について大まかな印象をお答え下さい

7. 1 授業の満足度

学部 一般教養科目（全学共通科目）	
自然系科目	1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
人文・社会系科目	1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
外国語	1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
専門科目（学部科目）	1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
大学院	1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足

7. 2 授業の満足度を決めた要因についてお答え下さい。

a. 講義内容 1. 重要 2. どちらでもない 3. 重要でない

b. 内容のレベル(高い、低い、丁度よいがあると思いますがすべて含めて)

1. 重要 2. どちらでもない 3. 重要でない

c. 教え方 1. 重要 2. どちらでもない 3. 重要でない

d. 先生のキャラクター 1. 重要 2. どちらでもない 3. 重要でない

7. 3 教官は授業の準備を十分にしていたと思いますか。

1. 十分 2. どちらでもない 3. 不十分

7. 4 教官は授業の理解をしやすくするように授業に工夫をしていたと思いますか？

1. 十分 2. どちらでもない 3. 不十分

7. 5 授業中に教官の授業に対する熱意が感じられましたか？

1. 多くの授業で感じた 2. どちらでもない 3. 殆どの授業で感じなかった

【8】学部の授業における教官との対話機会について

8. 1 科目（実験と演習は除く）を担当した教官と質問等を通しての対話について

質問等で教官との対話がありましたか。 1. あった 2. 少しあった 3. なかった

8. 2 学部学生時代に教官と授業を通じて以外に対話を持った経験がありましたか。（中論相簿やクラブ等の活動を通じてものは除いて下さい） 1. あった 2. 少しあった 3. なかった

8. 3 上で「あった」「少しあった」と答えられた方へお尋ねします。

その対話はその後に貴方に影響を与えましたか。

1. 影響を与えた 2. どちらともいえない 3. 影響を与えなかった

【9】学生時代の経済状況について

9. 1 貴方の学費、生活費の出所源についてお尋ねします。

a. 両親が支出した割合 \_\_\_\_\_ %

b. アルバイト等で自分が稼いで支出した割合 \_\_\_\_\_ %

c. 奨学金等を当てた割合 \_\_\_\_\_ %

d. その他(さしつかえなければ具体的に) \_\_\_\_\_ %

9. 2 学生時代にどの程度アルバイトをしていましたか、学生時代全体での平均時間をお答え下さい。

1. 全くしていない

2. 週に2時間以内

3. 週に2～5時間

4. 週に5～12時間

5. 週に12～20時間

6. 週に20時間以上

9. 3 奨学金についてお尋ねします。

9. 3. 1 学部学生時代

1) 貴方は学部学生時代に奨学金を受けていましたか。

1. 日本育英会の奨学金を受けた。

2. 育英会以外の財団などのいわゆるひも付きでない奨学金を受けた。

3. いわゆるひも付きの企業の奨学金を受けた。

4. 奨学金を受けなかった。

2) 上記1)で1もしくは2と答えられた方にお尋ねします。

何年受けましたか。 \_\_\_\_\_年

貸与ですか、給付ですか？ 1. 貸与 2. 給付（返済免除の場合は給付として下さい）

受けた奨学金の月額はいくらでしたか？ \_\_\_\_\_千円/月

- 3) 上記1) で4と答えられた方へ、その理由をお尋ねします。
1. 欲しかったがもらえなかった。
  2. 欲しかったが、返済・利息等の条件が付いているので受けなかった。
  3. 必要としなかった。
9. 3. 2 大学院修士課程時代(修士課程に在学しなかった方は、9. 4にお進みください)
- 1) 貴方は修士課程時代に奨学金を受けていましたか。
1. 日本育英会の奨学金を受けた。
  2. 育英会以外の財団などのいわゆるひも付きでない奨学金を受けた。
  3. いわゆるひも付きの企業奨学金を受けた。
  4. 奨学金を受けなかった。
- 2) 上記1) で1もしくは2と答えられた方にお尋ねします。
- 何年受けましたか、 1年 2年
- 貸与ですか、給付ですか? 1. 貸与 2. 給付(返済免除の場合は給付)
- 受けた奨学金の月額はいくらでしたか? \_\_\_\_\_千円/月
- 3) 上記1) で3と答えられた方へ、その理由をお尋ねします。
1. 経済的理由から
  2. 就職を決めることが第一の目的
  3. その他 ( )
- 4) 上記1) で4と答えられた方へ、その理由をお尋ねします。
1. 欲しかったがもらえなかった。
  2. 欲しかったが、返済・利息等の条件が付いているので受けなかった。
  3. 必要としなかった。
  4. その他 ( )
9. 4 日本育英会の奨学金についてお尋ねします。
9. 4. 1 日本育英会の奨学金制度について
1. 拡充する、2. 現状でよい、3. 縮小または廃止すべき、4. わからない
9. 4. 2 学部の奨学金についてお尋ねします。
- 現状の額、人数について
1. 拡充する、2. 現状でよい、3. 縮小または廃止すべき、4. わからない
9. 4. 3 大学院修士課程へ進学されたかたへ、修士課程の奨学金についてお尋ねします。
- 現状の額、人数について
1. 拡充する、2. 現状でよい、3. 縮小または廃止すべき、4. わからない
9. 4. 4 大学院博士課程へ進学された方へ、博士課程の奨学金について
1. 貸与奨学金を拡充 2. 現状でよい 3. 縮小 4. 廃止 5. 給付奨学金をつくり拡充 6. わからない
- 【10】 大学院について
10. 1 本学大学院工学研究科修士課程に進学されましたか。
1. した 2. しなかった
10. 2 本学大学院工学研究科に進学しなかった方に理由をお尋ねします。
- 該当するものいくつかでも○をつけて下さい。

1. 大学院進学による経済的負担が大きく、その余裕がなかった
  2. 早く社会人になって働く必要があった
  3. 大学院工学研究科での研究・勉学に魅力を感じなかった
  4. 大学院に進学するより他のことをしたかった
  5. 大学院入学試験に失敗した
  6. 大学院に進学することに能力的限界を感じた
  7. 他の大学院に入学した
  8. その他 ( )
10. 3 本学大学院工学研究科修士課程に進学された方にお尋ねします。
- 1) 修士課程の教育環境は満足できましたか。
1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
- 2) 修士課程の研究環境は満足できましたか。
1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満足
10. 4 大学院博士課程についてお尋ねします。
10. 4. 1 本学大学院工学研究科博士課程に進学されましたか。
1. した 2. しなかった
10. 4. 2 本学大学院工学研究科博士課程に進学しなかった方に理由をお尋ねします。
- 該当するものいくつかでも○をつけて下さい。
1. 大学院博士進学による経済的負担が大きく、その余裕がなかった
  2. 早く社会人になって働く必要があった
  3. 大学院工学研究科博士課程での研究・勉学に魅力を感じなかった
  4. 大学院に進学するより他のことをしたかった
  5. 指導教授等との考え方の相違など
  6. 博士号を取得しても社会的にメリットがあるとは思えなかった
  7. 大学院に進学することに能力的限界を感じた
  8. 他の大学院博士課程に進学した
  9. その他 ( )
10. 4. 3 博士課程に進学されなかった方にお尋ねします。
- 進学した方が後の貴方にとって良かったと思いますか。
1. 良かったと思う 2. どちらでもない 3. 良かったと思わない
10. 4. 4 博士課程に進学された方にお尋ねします。
- 進学したことが後の貴方にとって良かったと思いますか。
1. 良かったと思う 2. どちらでもない 3. 良かったと思わない
- 10. 5 全員にお尋ねします。(学部卒業、修士修了、博士修了など全員の方)**
- 京都大学工学研究科で博士課程に進学することは社会人になった後で自分にとって有利になると考えますか。
1. 有利になる 2. どちらでもない 3. 不利になる

ご協力ありがとうございました。何かご意見ありましたら下のスペースにご自由にお書きください。

## 1-5 学部学生(2年生以上)へのアンケート

本調査は工学部の自己点検・評価を行うためのデータ収集を目的としています。本アンケートの回答内容は統計処理し自己点検・評価報告書として公表します。

なお、回答に際し選択項目については当てはまるものを○印で選んでください。

記入したアンケートは平成17年7月14日(木)までに各学科教務窓口まで提出してください。

入学年度 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ コース \_\_\_\_\_

- 【1】 単位取得率は専攻の学年の必要数に対してどの程度ですか? \_\_\_\_\_ %
- 【2】 平成16年度(昨年度)の講義出席率はどの程度でしたか? \_\_\_\_\_ %
- 【3】 昨年度の子習・復習にどの程度の勉強時間をかけていましたか? (それぞれもともとも時間をかけている  
講義を念頭において答えてください。)
- 1コマ(90分×15週)あたり 予 習 \_\_\_\_\_ 時間 復 習 \_\_\_\_\_ 時間  
レポート \_\_\_\_\_ 時間 関連読書 \_\_\_\_\_ 時間
- 【4】 昨年度の課外活動(クラブ、サークル)、アルバイト、勉学の大学生活に占める割合  
クラブ・サークル \_\_\_\_\_ % アルバイト \_\_\_\_\_ % 勉学 \_\_\_\_\_ %  
その他 \_\_\_\_\_ % (具体的に \_\_\_\_\_ )
- 【5】 大学の講義は期待通りでしたか?
1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満  
理由 \_\_\_\_\_
- 【6】 全学共通科目講義のA、B、C、D群別満足度、専門科目講義満足度を教えてください。
- A群 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満  
理由 \_\_\_\_\_
- B群 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満  
理由 \_\_\_\_\_
- C群 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満  
理由 \_\_\_\_\_
- D群 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満  
理由 \_\_\_\_\_
- 専門科目 1. 満足 2. どちらでもない 3. 不満  
理由 \_\_\_\_\_
- 【7】 A. 2年生または3年生の段階でのコース分属をどう思いますか。  
1. 良い程度である。 2. 悪い程度である。 3. 良いとも悪いともいえない。  
4. コース分属とは関係ない学科なので回答できない。

4の答えを選んだ方は以下の分属に関する設問を飛ばして【8】へ進んでください

1-3を飛ばれた場合は理由を具体的に書いてください。 \_\_\_\_\_

- B. 希望したコースへ進学できる配属システムでしたか?  
1. はい(そうだと思う) 2. いいえ(そうは思わない) 3. わからない。
- C. 進学した(する予定の)コースに満足ですか?  
1. 満足 2. 不満 3. どちらともいえない。

- 【8】 A. 4回生の研究室配属では希望する研究室へ配属されましたか(きれいかどうか)?  
1. できた(できそうである) 2. できなかった(わりそうである) 3. わからない。

- B. 研究室配属に対する満足度はどうですか?  
1. 満足 2. 不満 3. どちらともいえない。  
理由 \_\_\_\_\_

- 【9】 大学院進学を考えていますか? (複数回答可)  
1. 修士課程進学 2. 博士課程進学 3. 他大学へ進学 4. 留学

- 【10】 A. 平成16年4月から京都大学は従来の国立京都大学から国立大学法人京都大学となり組織が大き

く変化しました。このことで大学の教育・研究の方法・内容が少しずつ変化しています。あなたはこの変化を実感していますか?

1. 変化していると思う 2. 変化していないと思う 3. わからない

- B. 「変化していると思う」を選択された方にお聞きします。どのようなところで変化を実感していますか? (複数回答可)

1. 建物 2. 授業内容 3. 研究内容 4. 教員の対応 5. 事務の対応  
そのほか具体的に法人化の影響が大学生活にあればお書きください。

- 【11】 工学研究科と情報学研究科の社移転の影響についてお聞きします。

1. 良い影響 2. 悪い影響 3. どちらともいえない。

理由を具体的に書いてください。 \_\_\_\_\_

どうもありがとうございました。

記入したアンケートは平成17年7月14日(木)までに各学科教務窓口まで提出してください。

ご質問のある場合は、工学部教務掛長 井上武男 (075-753-5039) までおたずねください。

